

隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 10 月号 第 470 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季永代経法要

講師 浄土寺前住職 朝枝 思善師

講題 『遇法のよろこび』

子孫に美田をのこさずという古語があります。きっと安穩に暮らせるような財産を受け継いだわけではなく、自らの力で人生を切り開いた人の言葉であろうと思います。そして自ら人生を切り開く力こそ、親先祖から受け継いだ宝だから、これを子孫にも受け継いでもらいたいという心なのでしょう。片方には、親の財産を食いつぶすという嫌な言葉があります。形あるものは本当の遺産ではない、



心を受け継ぎ、生き方から学べという戒めでしょうか。「死んで花実が咲くものか」といいます。生きていてこそその悲しみ苦しみであり、喜び楽しみではないか、前向きにいこうという意味でしょう。必ずしも死んだら終いだということではないと思います。実際、本人は不遇の人生をおくったけれども、後世に大きな遺産を残し、人々の心の中に生きつづけているという例は数えきれないほどあるのではないのでしょうか。しかし、それも一ではその志を受け継いだ後人の力であったはずで、先人の後を生きるわたしが問われるのでしょうか。永代経は先祖が私に残してくれた尊いみ教を伝える法座です。

10 月の法座予定

- 10 月 1 1 日 …… 掃除 出口・宮原
- 10 月 1 4 日 昼席午後 1 時より …… 秋季永代経法要
- 10 月 1 4 日 夜席午後 7 時より …… 出張法座 出宮集会所
- 10 月 1 5 日 朝席午前 10 時より …… 若い婦人の集い おとき
- 10 月 1 5 日 昼席午後 1 時より …… 秋季永代経法要
- 10 月 1 5 日 昼席終了後より …… 庫裏修復実行委員会
- 11 月 2 日 午後 6 時より …… 門信徒会本部役員会

☆灯茶会

今年も灯茶会を開催いたしました。18 日に本堂の裏の竹を切っていただき、竹の灯籠を 100 個作って境内に火を灯しました。山門からの灯りの列はなかなか素晴らしいもので、本堂がうっすら浮かび幻想的でした。



光というものはすばらしいものです。暗闇の中ではそこに存在していても見えませんし気がつきません。

実は光という文字は火が放つものということを表しているのです。つまり、人の心の闇を照らす光というのは、燃える心が放つものにほかならないということなのです。

如来は心の闇を照らす光であると讃えられてきました。光は不安を除き、道を見いだし、勇気と喜びを与えます。

如来は見ることのできない存在ですが、教を して心に思い、悩みや苦しき悲しみの中で、そのお慈悲を感じ取ることのできる存在です。

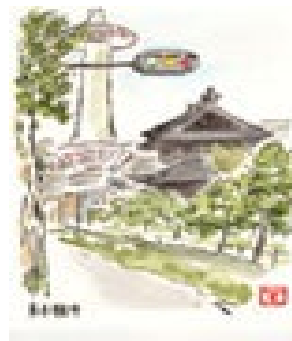
まことに、如来は、闇路に迷うわたくしたちのために現れて下さった光であり、嘆きの中に滅びようとする私たちを抱き取るために立ち上がって下さったいのちでありました。

兎にも角にも綺麗な灯りと、虫の声を堪能した夕べでした。



☆若い婦人の集い 10 月 15 日 (日) 午前 10 時～

今年も若い婦人の集いを開催します。明日のために今日があるわけではありません。老後のために青春があるのではなく、大人になるために子どもがいるわけではないのです。そしてまた、少年が老け込んだのが老人なのではありません。若すぎる老人が少年なのではありません。それぞれが初めての今日、最後の今日、私の今日を生きているのでしょうか。かけがえのない今日を生きるのです。悔いることのない、輝ける今日でありたいですね。今日を明日の手段にしてはなりません。今日そのものが、尊く、かけがえのないいのちの時なのです。今日の一日生きることを真剣に考えてみましょう。若い婦人の集いです。誘い合わせてお参りください。



☆御礼

永代経懇志 金 貳拾萬円 高部清子殿 故 高部忠様 特 永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 高部清子殿 故 高部忠様 香典返しとして

力を いたとたん 世界がひらける

私が、若い頃読みふけた懐かしい書物の中の一冊に、出隆（いでたかし）先生の『哲学以前』があります。出隆先生は、哲学者であられるとともに、「神伝流」の水泳の達人でもあられたと聞いています。

その出隆先生が、何かに「水泳」のことをお書きになっていました。「水は、人間を浮かせるだけの浮力をもっている。しかるに、人間が溺れるというのは、心の重みで溺れるのである。だから、溺れた人というのは、『こんな所で・・・』と思われるほど、浅い所で溺れている。結局、水の浮力に足をとられてあわててしまい、その心の重みで溺れたのである。心を無にして、身も心も水に預ければ、自分の力を使わなくてもおのずから浮かぶ」というような内容の文章でした。



出隆先生の、「心を無にして、身も心も水の浮力に預ければ、おのずから浮かぶ」というお言葉は、親鸞聖人が「如来の本願力に乗托すれば、おのずから然からしむる自然法爾の世界を恵まれる」とお教えくださっていることにも じているように思います。またそれは、私が子どもの日、あの熱くて熱くてたまらなかつたお灸の熱さが、「きばり心」を抜いたとたん、あんな快い安らぎの世界に変わったことにも、つながっている気がするのです。

私は、初め、お灸の熱さに負けまいとする「きばり心」の重みで、熱さの底に沈み、熱さの苦しみに溺れていたのです。それが「きばり心」を捨てたとたん、熱さが苦にならない世界に浮かせてもらったのです。

どなたのお作か存じませんが、「散るときが浮かぶときなり蓮の花」という句が思い出されます。「自分が……」という「我」が散ったとき、ポッカリ、安らぎの世界に浮かばせてもらうのです。水に「浮力」があるように、私に注がれている「本願力」が、沈むしかない私を、浮かせてくださるのです。

☆研修旅行

9月3日に三次方 に研修旅行に参りました。参加者が多くてバス2台になり賑やかな旅行になりました。今年は住職・坊守を含めて総勢86名、大型バス満席の状態です。8時出発というのに集合場所の芸陽バス車庫に私が7



時半に着いたら、すでに半分以上の人が集合しておられました。1号車は芸陽バスの車庫でしたが、2号車は随泉寺の前の道路まで来ていただきました。朝は保育園の子供たちが登園してくるので、なるべく邪魔にならないようにとお願いしていたので、スーパーの向こうで待っていてくれました。定刻より少し早めに出発。一号車は途中のバス停宮原橋で出宮の人を、瀬野大橋では瀬野川団地長者原、桑原の人を乗せて一路三次へ。途中福富の道の駅にトイレ休憩、残念ながら朝が早くてお店は開いていませんでした。



最初にお参りした糸井の照善坊は、私が初めてお説教を35年前にさせていただいたお寺です。震えながら、汗をかきながら、必死の思いで、仏様の前に立った若いころを思い出しました。照善坊の前住職 福間欣司先生が『私の前を歩いて導いてくださる方が



あるから任せて歩めば良いんですよ』とお示ししてくださったのが、昨日のようによみがえりました。ご住職のお話も照善坊に伝わるマツのおいわれを して罪多い私がお目当てのみ教えであると、とても解りやすくお話いただきました。これから縁があれば随泉寺にも出講していただきたいと思います。次の廻り神の善徳寺も、35年前に泊めていただいたお寺です。若い人や、手を合わす子供をお育てさせていただくことを熱心にお話くださいました。とてもユーモアのあるご住職で話がわかりやすく、皆さんも喜んでいました。おいしいお昼ご飯を頂いたあと、布野の真光寺におまいりしました。ここは私のおばのお寺です。前住職が3年前になくなり、懐かしいような寂しい様な思いでおまいりしました。



おじはとても愉快な方でお酒も大好きで、お酒は楽しく飲むものというのを教えてくれました。学生のころにスキーに行くとき、一 の雪景色のなかでたずねたところを思い出します。お寺をめぐるという旅行は普通の旅行と違います。時間を越えて尊いものに出会わせて頂く、意義深いものです。とにかく貴重な研修旅行でした。

